

令和 7 年 3 月 5 日

保護者・地域の皆様

世田谷区立烏山小学校
学校関係者評価委員会

令和 6 年度学校関係者評価の報告

早春の候、皆様にはお健やかに過ごしのことと存じます。

本年度も学校関係者評価アンケートにご協力いただき、まことにありがとうございます。

学校関係者評価委員会では、このアンケート及び教職員の自己評価の数値を分析し、行事や授業等の教育活動の観察を行いながら教職員と意見交換を進めてまいりました。

その結果を評価と提言としてまとめましたので委員一同、感謝申し上げると共に、アンケートの考察と併せてご報告いたします。

なお、アンケートの結果の A「とても思う」と B「思う」の数値の合計を「肯定的評価」としています。

	総数	回収	回収率 (%)
児童 (5・6 年)	1 8 3	1 8 2	9 9 . 4 (%)
保護者	5 9 6	5 3 2	8 9 . 2 (%)
地域	7 0	2 8	4 0 . 0 (%)

I 重点目標について

1. 主体的に探究する子どもの育成

「学習のめあてについて、主体的に探究する」

児童の91.9%が「授業で自分の考えをもつことができている」と高い肯定的回答をしている。また、「友達の考えを聞いて自分の考えを深めたり、広げたりしている」では、児童の84.7%が肯定的回答をしている。

このことから、児童が、課題解決に向けて、まず自分なりに考え、協働的な学習での練り合いを通して、多角的・多面的などに考慮し、結論を見い出しながら、さらに考えを深めていくという探究的な学習に一生懸命取り組んでいる姿がうかがわれる。

また、児童の87.6%が、「先生は、課題(めあて)について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」と肯定的回答をし、児童の99%、保護者の81.8%が、「授業で考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」と、肯定的回答をしている。さらに、保護者の81%が、「本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業を行っている」と肯定的回答をしている。

このことから、教職員が、文部科学省の学習指導要領に明記されている「主体的、対話的で、深い学び」を前提に、児童が課題意識をもち、主体的に探究していけるよう、話し合い活動や協働的な学習の計画的導入、教材・教具の工夫、ICT機器の活用など、学習過程や学習活動、学習方法において、分かりやすい授業の充実・改善に取り組まれた成果が現れていることがうかがわれる。

しかし、「授業で自分の考えを伝えることができている」では、児童の肯定的回答は、71.9%と80%を切っている。同設問では、教職員は、97.1%が肯定的回答をしている。

このことから、まず、児童と教職員の「伝えること」のとらえ方の乖離の要因を含め、肯定的評価が80%に満たない要因を、伝達力や語彙力、学級の人間関係・雰囲気、心理面、等々、児童の実態から検討され、児童が「伝えたいくなるような」言語活動の環境整備をさらに進められることを期待する。

2. 多様性を認め合える子どもの育成

「自分のよさや可能性を信じ、互いに違いを認め合い、よりよい学級をつくろうとする」

「私は、クラスのために役立とうとしている」「私は、学校で自分なりに工夫して学習したり、活動に参加したりすることができている」どちらも児童の80%以上が肯定的回答をしており、自己肯定感の高さが評価できる。

また、「私は、クラスの友達といっしょにより良いクラスにしようと努力している」児童の82.1%の肯定的回答から一人一人が他者への優しさや思いやりを持って生活できており、良好な学級経営に教職員の指導の努力がうかがわれる。

一方で、10%以上の児童が否定的回答をしており、さらに寄り添った指導や支援の必要を感じる。

教職員が一人一人の児童を受容し、個々のよさを発揮できる活動や場を設定し、個のよさや活躍に気付かせていく実践が継続されることを望む。そして、インクルーシブ教育や多文化共生教育を計画的に推進してほしい。

3. 心と体の健康な子どもの育成

「自分の心と体の健康を意識し、すすんで体を動かそうとする」

「体を動かすことは大切だと思っている」「体を動かすことが楽しい」どちらも児童の肯定的回答が85%以上となっており、休み時間の外遊び推奨や長縄週間など、学校での日頃からの環境づくりの成果の一つと捉えられる。

また、「学校や学校外で体を動かしている」児童・保護者ともに肯定的回答が前年度より上昇し改善しているが、一方で体力調査では平均を下回っている項目も多く、今後も児童がすすんで体を動かそうとする環境づくり、体力向上につながる取り組みを継続してほしい。

Ⅱ 重点目標に向けた取り組みについて

4. 教育のプロとして教員の資質や組織力の向上を図る

[学校運営、学級経営]

保護者、地域ともに肯定的回答が多く、おおむね良好である。

しかし、前年度より引き続き、「先生たちに相談できる」児童・保護者の否定的回答が上昇しており、人間関係や信頼関係の構築に取り組みながら相談しやすい環境づくりを望む。

[学習指導]

「先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」児童の否定的回答が上昇しているため、授業の理解度に問題がないか注意を払っていただきたい。

保護者の「分からない」回答も依然として高く、教職員の取り組みを分かりやすく伝える、また、伝える機会を増やすなどの工夫をしてほしい。

[生活指導]

おおむね良好。

教職員が児童理解を深めて正しい方向へ導いていこうとする努力と、児童自身もよりよく生きようとする表れと受け止められる。ただし、肯定的に受け止めていない児童には、引き続き丁寧に指導・支援されることを望む。

登下校時の地域との関りでは、地域の否定的な回答が目立つため、児童の登下校時の実態把握と、家庭・地域と連携した指導の工夫を望む。

[学校行事]

教職員の働き方改革が進む中でも充実した活動ができているのは素晴らしい。
学校行事を通じて、児童の意欲や達成感を大切にしたい指導と実践を今後とも期待する。

[体育・健康教育]

おおむね良好。

教職員主導のもと、外遊びの奨励や教科体育の工夫を通して運動の質や量を鑑み、児童の基礎体力や運動能力の向上に努められることを今後とも期待する。

5. 持続可能な社会を目指し、保護者・地域との連携を深める

[地域との連携]

学校運営委員会をはじめ、FATHERS鳥山、各町会と良い関係を保ち、連携して教育活動に生かしている。保護者のアンケート結果から地域への情報提供が足りないと感じられていることから、PRや発信方法の工夫が望まれる。

地域設問「本校の通学路は安全である」否定的回答が46.4%と高く、地域、保護者とともに連携して具体的対策を検討、改善されることを望む。また、安全面の見直しとともに通学時のマナー教育や交通安全教室などを引き続き行ってほしい。

[情報提供]

保護者、地域とも学校からの情報提供に肯定的回答が多い。

6. 「キャリア・未来デザイン教育」の実現

[キャリア教育]

教職員の肯定的回答は多いが、児童・保護者の評価と乖離が見られる。

「目標を持ち、その実現に向けて努力している」児童の80%以上が肯定的回答しており、意欲的な生き方につながると考えられ、児童のキャリア形成に大いに期待できる。

一方で、「生き方や将来のことについて考える授業をしている」児童・保護者の否定的回答が目立つため、まずは、キャリア教育の意義・目的・内容・方法・評価などについて学校から具体的に児童・保護者に説明し、理解浸透を目指していただきたい。

[学び舎]

児童・保護者・地域の認知・理解度が依然として高まらない。

「区立中学校に関する情報が提供されている」児童の肯定的回答は35.7%と特に少なく、児童の多くは小学校と中学校が一体的な学びの場であると認識していない可能性が高い。また、保護者の25%が小学校と中学校の交流機会を認知していない。

増加を続ける中学受験比率・東京都による私立中学校通学家庭への配慮など、区立の小中学校を一体とする考えや取り組みに目が行きにくいことが想像される。

保護者・地域には、【学び舎】の取り組みが、いかにして価値のある取り組みを実践しているかを、体系的かつ具体的に示していくことが求められる。

児童が“学び舎で学び続けたい”と思える魅力の向上、また、情報提供や交流機会の機会が増えることを望む。

Ⅲ 学校生活全般

「学校生活は楽しい」「学校が好き」児童の80%以上が肯定的に答えていることは嬉しい。これは、一人ひとりの児童に対して、大切に寄り添いながら、指導や支援が継続されている成果である。

様々な面において、児童がもつ教職員への信頼感の高さが感じられ、また、その教職員の関わりに応え、児童たちも友だちと一緒に学校生活を築きあげている様子が見受けられる。

その一方で、10%以上の児童が否定的であることも忘れてはならない。教職員は学校の輪に入れない児童への支援や相談などに今後とも力を入れて取り組んでいただき、保護者や学校関係者も協働していく必要がある。また、行政への関わりも必要となるのではないだろうか。

家庭での学習は、児童・保護者とも肯定的回答が他の設問に比べ低い。高学年になると中学への進学も近づき、より学習への関心は高まるため、コロナ以降変化したタブレットを使用・活用し、学校だけでなく家庭でも協力、協働することを望む。ICT機器を活用しながら自分に合った学習方法を見つけ、学ぶ楽しさを将来につなげていけるような取り組みを期待する。

今後、興味関心をもち学びを深め広げていくためには、重点目標の『主体的に探究する子どもの育成』の充実がより求められる。また、可能なかぎり教科によってレベル別を拡充するなどの対応にも期待したい。

以上